



GIR接合部は、接着剤より耐熱性が高くローコストなモルタル充填接合を開発した。

施工は工場製作された剛接仕口ユニットと床CLTを一層一節の積層工法で建方を行い、純木造建築のためコンクリート打設がなく粉塵などが発生しない衛生的な作業環境となり、乾式の木造ならではの工期短縮のメリットを実現している。軽量のCLT床は、耐火被覆CLT床スラブの上に根太を交互に配置した板バネにより重量衝撃音を低減



1. ピロティとエントランスホール
2. 2階研修室
3. 外周部に緑化テラスを設けた8階研修室

する仕組みで遮音性能を確保している。

環境面においては、構造躯体の木造化により、木材使用量は一、九九〇立方メートル（〇・五五立方メートル／平方メートル）に達し、約一、六五〇トンのCO₂固定量となり、これは約四・五杉のスキの人工林が五〇年で吸収する炭素量を固定できたことに相当する。LCAにおいて地球温暖化ガス排出量は標準的な鉄骨造に比べて約二分の一、約一、七〇〇トンの二酸化炭素排出を削減した。環境性能は、断熱性の高い木構造躯体の外壁やスラブの採用に加え、窓部のダブルスキン、地中熱や太陽光な

ど自然エネルギーの利用、昼光照明制御やデシカント空調の採用などにより、消費エネルギーを一般的な建物の五〇％以下となるZEB Readyを達成した。WELLプラチナプレ認証、LEEDゴールド取得、CASBE 横浜シランク、FSCプロジェクト認証を取得している。

維持管理については、木の内外装材の退色変化はそのまま享受し、外部に面する木羽目板は定期的に経過観察を行って経年劣化のデータ取得材料としている。メンテナンスは新たに仮設足場を建てることなく建物側から安全にアクセスでき

Port Plus 概要

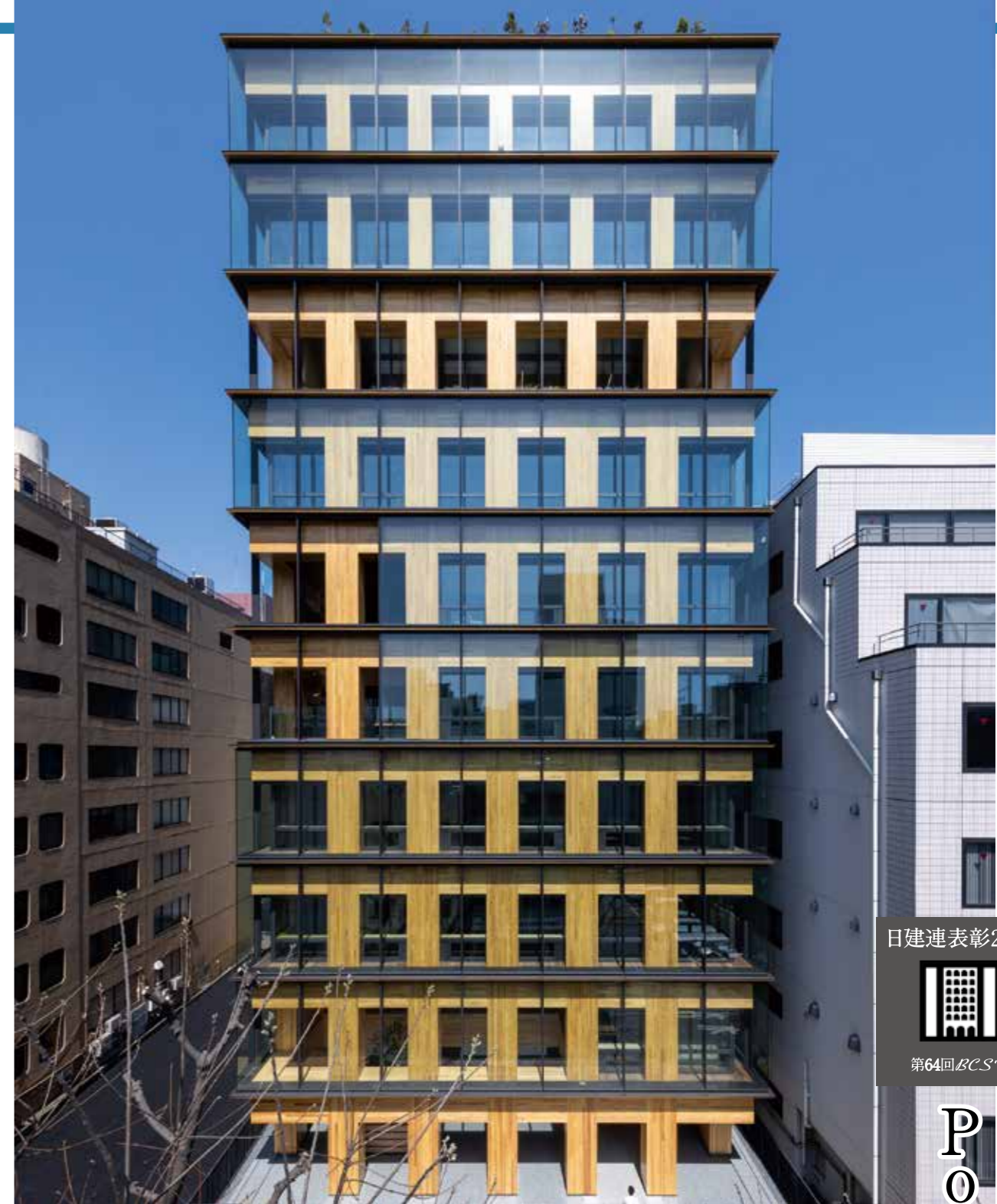
- 所在地 神奈川県横浜市中区弁天通2-22
- 建築主 ㈱大林組
- 設計者 ㈱大林組
- 施工者 ㈱大林組
- 竣工日 2022年3月15日

- 敷地面積 563㎡
- 建築面積 398㎡
- 延床面積 3,503㎡

- 階数 地上11階、地下1階
- 構造 地上：木造、地下：鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは左記の二次元コードからWebページにアクセスしてご覧ください。



日建連表彰2023



第64回BCS賞

Port Plus

選定理由

【選考委員】
稲山正弘・篠崎 淳音 順二

横浜市に建てられた宿泊室付き研修施設である。基準階は、中央にシザース階段、エレベーターホールなどのコアを配置し、北側に宿泊室、南側に奥行一〇以上の無柱の研修スペースを配した回遊性のある平面計画としている。

構造は地下一階柱頭免震構造の上の一階建て純木構造（中間梁付き一方向ラーメン構造＋CLT耐震壁）とし、柱梁ラーメン接合部は「剛接仕口ユニット」を開発。つづり材の自社技術であるオメガウッドを応用して、超厚合板による仕口パネルをLVL柱・梁部材でサンドイッチして三層をドリフトピで一体化することにより、鋼板金物を使わずに初期剛性と高耐力・高靱性を有する木質剛接仕口を実現させた。耐火性能が求められる計画としている。

日本初の高層純木造建築であるため、その実現のために耐火性能及び耐震性能の実験検証や耐火大臣認定・構造評定取得、耐火被覆された木造躯体に対する外装や開口部などの納まりや施工方法などについて実大モックアップを作成して検証するなど、建築主である設計施工者の総力を挙げて開発実用化に取り組み、新たなシンボルとなる自社ビルを目指してすべての面で最上級の先進技術を投入した、わが国の高層木造建築の技術史におけるマイルストーンといえる作品である。

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2023年で64回を数えました。

《日建連表彰2023 第64回BCS賞受賞作品》 WITH HARAJUKU / Entō / 大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備 / 大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 / 京都市美術館（京都市京セラ美術館）/ シェルター・インクルーシブプレイス コハル / 渋谷 パルコ・ヒューリックビル / 清水建設北陸支店新社屋 / 新宮市文化複合施設（丹鶴ホール） / 那覇文化芸術劇場 なはーと / 日本女子大学目白キャンパス再整備 / Port Plus / 丸紅ビル / ミチノテラス豊洲 / 早稲田大学本庄高等学院体育館